

魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 小田達夫

所属: 東京学芸大学附属特別支援学校

記録日: 2017年2月18日

キーワード: 「デジタル教材による学習補助」

【対象生徒の情報】

・学年

中学部2年の男子生徒

・障害名

知的障害

・障害と困難の内容

対象生徒にとって興味があることや好きなこと以外は意欲的に活動することが少ない。そのため、家庭での手伝いや身の回りのことに関しての経験が少なく、やり方がわからない。また、運動面に関しても動きがぎこちなく、自信がもてない様子である。

【活動目的】

・当初のねらい

○やり方がわからなかったりしたら、タブレット端末で確認して行う。

○家での手伝いなど一人でできることを増やす。

○苦手なことや難しいと思うことに対しても自信をつける。

以上のことから対象生徒が自分でできるための補助となるデジタル教材を用いて、これまで難しかったこと、やりたいことを実践していくことを目的とした。

・実施期間

2016年7月20日(夏休み開始日)から実施。現在も継続して実施中。

・実施者

小田達夫、保護者

・実施者と対象生徒の関係

学級担任、親

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

学校では係の仕事などやり方がわかれば、忘れずに行うことができるものの家庭では自分から手伝いを行ったりすることは少なく、実際に家での掃除や片付けなどは難しいと感じている。いろいろな活動に対して自信がなく、自分から積極的に活動を行うことが少ない。日々の学習活動に組み込まれているマラソンの時間は意欲的に取り組めるようになってきたが、まだ身体の使い方などぎこちない様子が見られる。また急激に身長も伸びてきており、バランス能力が低く、姿勢も悪い。家庭ではPCやタブレット端末を使って好きな動画を見ている時間が多く、PCやタブレット端末の操作は概ね一人で行うことができる。

・活動の具体的内容

デジタル教材を作成するために「iBooks Author」を利用した。作成したデジタル教材は iPad の「iBooks」に保存することにし、それを「お助け Books」と称して対象生徒にとって意欲が高まるように設定した。対象生徒はタブレット端末を扱うことは好きなので、自ら iPad を操作して、「お助け Books」を活用することでやりたかったこと、難しかったことに対してのやり方を学び実践してくようにした。



iBooks Author

よ
助
い

①「お助け Books」の作成について

対象生徒が家庭での手伝いや自分のプライベートの時間、そして学校生活での活動の中でやりたいことや難しいことを保護者面談や本人との会話の中で調査を行った。以下が作成した「お助け Books」の種類である。

〈対象生徒との会話で確認したもの〉

▼料理(ゆで卵、スクランブルエッグ、目玉焼き、オムライス)

▼運動(マラソンで速くなるために) ▼趣味(一人で出かけよう)

〈保護者との事前面談で確認したもの〉

▼掃除(玄関、お風呂場、掃除機、窓拭き、トイレ、洗面台、食器洗い)

▼身の回りのこと(ネクタイ自分で結ぼう)

〈学校生活で困難に感じていること〉

▼運動(姿勢良くなるために、体を動かしていない日に、体を柔らかくするために)

▼身の回りのこと(気持ち良い挨拶を)

計18種類の「お助け Books」を作成することができた。(右図はその中の一部分)

「iBooks」は iPad の操作に慣れていれば簡単に扱うことができ、動画で活動内容ややり方を確認することができる。そのため、タブレット端末の扱いに慣れている対象生徒にとっては活用しやすいものと考え、用いることとした。



や

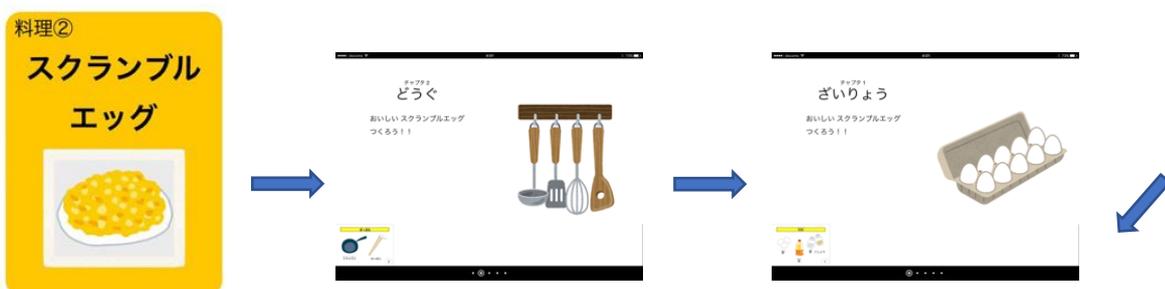


②iPad を家庭に持ち帰り実施

チェックリスト(右図)を作成し、実施したものを記入することで活動を促すようにした。一番始めに取り組んだのは、自ら望んでいた「料理 スクランブルエッグ」であった。自分でうまくできた感触があったのか、夏休み中に学校に登校する機会があり、教員に「スクランブルエッグを作った。」と報告してくれた。自分から休み中の活動について報告してくれることはほとんどないので、良い成果が見られた。また、チェックリストには、対象生徒の好きな電車のイラストを入れて意欲を高めた。チェックリストを確認すると、一通りの「お助け Books」を試すことができていた。

日付	お助けブック	やった	やった回数	感想
8/20	スクランブルエッグ	○	2	できた
8/21	スクランブルエッグ	○	2	できた
8/22	スクランブルエッグ	○	2	できた
8/23	スクランブルエッグ	○	2	できた
8/24	スクランブルエッグ	○	2	できた
8/25	スクランブルエッグ	○	2	できた
8/26	スクランブルエッグ	○	2	できた
8/27	スクランブルエッグ	○	2	できた
8/28	スクランブルエッグ	○	2	できた
8/29	スクランブルエッグ	○	2	できた
8/30	スクランブルエッグ	○	2	できた
8/31	スクランブルエッグ	○	2	できた

(例1) 料理 スクランブルエッグの「お助け Books」





・対象生徒の事後の変化

- 夏休み明けの登校時に「お助け Books」について対象生徒と話をした。「まあまあ楽しかったな。」と言葉遣いは良くなかったが返答があった。通常であれば「ああ。」や「うん。」で話が終わってしまうこともあるので、自分なりに上手く使えているのだと感じた。また、夏休み後に対象生徒と保護者に対して、取り組みに関する簡単なアンケートを実施した。「自分でやりましたか。」「(対象生徒向け)」「自ら取り組んでいましたか。」「(保護者向け)」の項目については、対象生徒と保護者の回答が一致せず、対象生徒は自分でやっていると答えたが、保護者は声をかけていると答えた。しかし、アンケートからは前向きに実施できている様子は見られた。また、冬休み前にもアンケートを実施したが、夏休みほどは時間が取れなくて実施が少なくなったが、運動関係のものは手軽にできるため取り組むことが多いようであった。
- 「お助け Books」活用開始後の授業で窓ふき掃除を行ったが、夏休み中に「お助け Book」を利用して家でやってきたようで、みんなの前で窓ふきを行い、やり方は「お助け Books」で提示されていた通りに行うことができていた。周りの友達もしっかりできてきていることに対して驚いている生徒もいた。この経験で少し自信がついた様子も見られた。
- 学級の時間にiPadをテレビにつないで「お助け Books」の「運動 体を柔らかくするために」の中にあるストレッチを行った。「俺のだ・・・。」と言葉遣いは良くなかったが、「お助け Bookss」=「自分のもの」という意識もあり、自分にとってのお助けツールであることが感じられた。
- 保護者アンケートや面談によると、これまで掃除などの手伝いはやってくれなかったが、「〇〇の掃除をして。」と、お願いすると一人でやってくれるようになったとのことであった。また、ゆで卵は一人で作ることができるようになったそうである。保護者としても「これまでやろうとしなかったことを学校のタブレットがあるから取り組むことができたのは良かった。」とアンケートで答えてくれた。
- 学校生活でも、積極的に体を動かすことができるようになってきた。また、学級の仕事として、机ふき、ゴミ捨て等があるが、周りの友達に促されてやっている時もあるが積極的に動くことのできている場面も増えた。掃除の時間は自信をもって取り組むことができおり、「お助け Books」によって『自分でできる』という気持ちが高まった様子が見られた。
- アンケートの内容と結果は以下の通りである。保護者より改善点についての指摘もあったが、好意的に活用することができていた。



《保護者のアンケート》

1)タブレット端末(iPad)の取り扱いについて → 問題なく一人で扱うことができていました。

2)どのくらいの頻度で利用していたか → 週2回程

3)活用の方法について

→ 始めは一緒に取り組み、慣れてきたら一人でさせました。そうじなどは、1度目はタブレットを見ながらしていましたが、2回目からは見ずにしていました。抜けている点や間違っている所がある時はその箇所の動画を見せ

て確認させました。運動に関しては見やすい位置にもって見せました。

4)保護者の視点から良かったと思う Books

→ 掃除系のものや体操系のものが良かったです。掃除は親がしてくれるものと思っていてなかなかしようとしなかったのですが、タブレットをきっかけにし方を学び、「〇〇の掃除をして」と言うのとやってくれます。体操はやってみてできないものとかがあり、親も初めてそれができない事に気がつきおどろかされました。

5)保護者の視点から良くなかったと思う Books

→ 「ネクタイ」は何種類か結び方があるので、それぞれが自分で結びやすい方ができるように何種類かあるといいなと思いました。

6)「お助け Books」を活用して良かったと感じた点

→ 子供が興味を持たず、親が教えようとしてもやろうとしなかった事を「学校から持ち帰ったタブレット」という事で本人がやろうという気になって取り組んでくれた事がとても良かったです。

7)「お助け Books」を活用して良くなかったと感じた点 → 特にありません

8)保護者から見て何かお子さんの変化がありましたら

→ 玄関のそうじは頼むと「ちょっとだけだぞ」と言いながらも素直にしてくれるようになりました。ゆで玉子なども頼むと作ってくれます。タブレットでした事は宿題感覚でしょうという気になるようです。

《対象生徒のアンケート》

【調査のプロジェクト】 「おたすけブック」アンケート

これまで長い間「おたすけブック」を使ってきました。きつとがんばっていることにチャレンジしてきたと思います。そのことについて書いてください。

1)「おたすけブック」はどうでしたか？

あかりやオカッポ

2)「おたすけブック」をやって、母に良いことがありましたか？それは何ですか？

たまごの料理

3)「おたすけブック」これからはもっぴたいですか？

はい

4)「おたすけブック」の中で楽しかったもの、つまらなかったものは？それはなぜ？

楽しい 料理
つまらない 体操
理由が ない
おたすけブックのイラストが可愛らしい

5) 他に欲しいブックを教えてください。

おたすけブック

★ ありがとうございます。まだまだ「おたすけブック」を使ってがんばりましょうね！！

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- 1)「お助け Books」が自分のお役立ちツールであると実感したことで、対象生徒本人にとって苦手なことや難しいことでも取り組むことができたのではないかな。
- 2)これまでできなかったことが『できた』という経験を通して自信が付き、体力面、生活面にも生かされているのではないかな。

・気づきに関するエビデンス

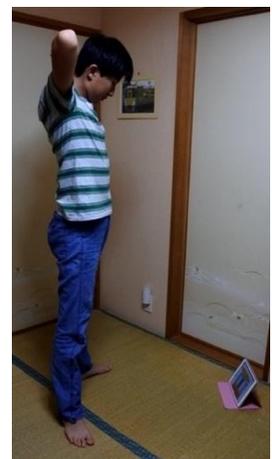
1)対象生徒にとって掃除も料理もやり方がわからなかったという状況から「お助け Books」がわかりやすかったことで取り組むことができた。チェックリストによる実施数(右表:7月~12月初旬)をまとめると運動の「お助け Books」の実施が多かった。運動の「お助け Books」はタブレット端末(iPad)を見ながら実施するものであるのに対して、他のものはやり方を覚えることで「お助け Books」がなくても実施できるものであることから、対象生徒がやり方を覚えて活動できるようになったことがうかがえる。その中でも対象生徒にとって苦手

《チェックリストによる実施数》

運動	掃除	料理	身の回り	趣味
45	8	8	5	1

〈回〉

とする運動の実施が多かったことは、「お助け Books」が自分のお役立ちツールと感じたことが大きな要因ではあったが、保護者のアンケート結果からもあったように学校のタブレット端末(iPad)を持ち帰って使っていると

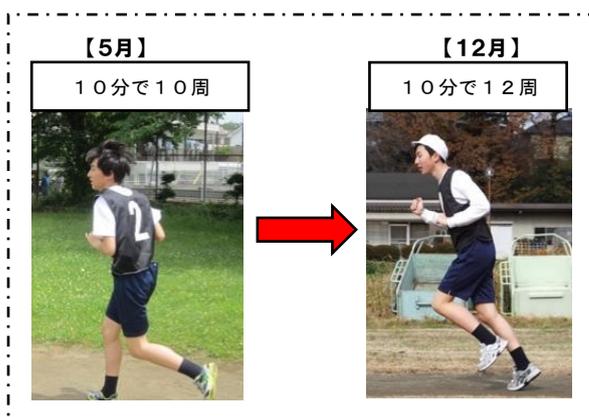


【運動の「お助け Books」：家庭で取り組んでいる様子】

いう特約的なものであったことも意欲の向上につながった。

2)運動の「お助け Books」の実施が多かったことで右図のよう

に走りのフォームの変化が見られた。5月の走りは背筋が曲がって姿勢が悪かったが、12月の走りは背筋も伸びて力強い走りになった。そのため、前に進む推進力も上がって10分間走の周回数(1周150m)の増加もあった。また、保護者のアンケートにもあったが、「お助け Books」をきっかけに家庭での手伝いができるようになった。体力面、生活面でできなかったこと、難しかったことができるようになったことで自信をもって取り組むことができるようになった。



(例2) 運動 体を動かしていない日に「お助け Books」



動画を見ながら体を動かす！！



・その他エピソード

最近の学校生活を振り返ると「お助け Books」の実施によって自分でできることが増えたり、やりたいことができるようになったりしたことで対象生徒は自分だってできるということに気がついてきたように感じる。これまで対象生徒は積極的に周りの友達と関わることが少なかったが、友達と仲良くふざけ合っている様子が多く見られるようになり、また学級のフィットネスの時間に行うストレッチでは非常に体が硬いということもあるが、なんとか柔らかくしようと辛い表情で頑張っている姿も多く見られるようになった。対象生徒にとって、日々の生活が充実しているように感じられるのも、「お助け Books」の成果であると思っている。これからも「お助け Books」で培った自信を強くもち、今後の成長につなげていってほしいと思う。ただ今回の「お助け Books」は周りの支援者が教材を作ってくれることが必須なので、自分でやり方の動画をとって保存したり、インターネットで検索してやり方を調べたりするスキルを身につけてタブレット端末が本当に自分にとっての「お助けツール」になるよう支援していきたいと考えている。それによって自分の目標にチャレンジしていったり、やりたいことを実行に移していったりと自立への道に進んでいってもらえることを願っている。

